

「国際救助犬試験」富士見高原で開催

5月20日から3日間の日程で、富士見高原リゾートにおいて、災害や遭難などの現場で行方不明者の捜索にあたる救助犬の認定試験が行なわれました。



指導手の指示に従い、瓦礫(がれき)の中の被災者役スタッフを探す犬、発見するとほえて知らせます。

今大会には神奈川県を中心に19頭が参加、日頃の訓練の成果を発揮しました。

救助犬は、優れた嗅覚を使って、けが人や不明者を捜索するとともに、人間では立ち入ることのできない危険な場所での捜索にもあたることができます。

このように有能な救助犬ですが、現在のところ公的に救助犬を所有しているのは消防庁の2頭のみで、救助犬育成の公的機関もなく、ほとんどの活動が個人のボランティアで行なわれているのが実情とのことです。

「救助犬の活動をより多くの方に知っていただき、1日も早く公的整備を進めてほしい。」と主催者のNPO法人 救助犬訓練士協会の方よりお話がありました。

この大会での上位2頭がフランスで行なわれる国際大会に出場します。



国道端がきれいになりました

5月24日、富士見町衛生自治会とクリーンアップふじみの皆さんが、町内の国道端のゴミ拾いを行ないました。

下藤木県境から諏訪南インター下までの区間で回収した空缶やペットボトル、コンビニ弁当の容器などは、軽トラック3台ほどにもなりました。

一人ひとりの心がけて、きれいな町をつくってゆきたいものです。



ふるさとのみなさんへ 東都高原富士見会だより



小 林 勲
八王子市
(信濃境出身)

昭和十六年、太平洋戦争勃発の年に、十人兄弟の末っ子として生まれました。暮らしたは楽ではありませんでしたが、伸び伸び育ちました。七都府県を移り住んで教育・環境・福祉・販売等に携わり、今は司法書士事務所勤務して十九年目です。この間、どこで何をしても故郷のすべが支えませんでした。先日東都高原富士見会の総会に出席して懐かしい訛りを聞き、改めて故郷の良さを味わいました。度々、墓参りや小中学校、高校の同級会、御柱祭等で帰郷しましたが、その度にホッとしたものを感じ、心底リフレッシュできました。とりわけ、八ヶ岳や南アルプス、富士山を眺めた時は最高です。

運動会等で走ったことを思い起こし、五十歳からフルマラソンを始め、ゴールとビールを楽しむに二十五回完走、他に諏訪湖マラソン等ロードや十種競技等にも挑戦しました。

観戦では阪神タイガースの応援に熱中しています。清里の酪農家に長女が嫁ぎ、その三人の孫を八年余り写真に撮り続けています。

それから、郷里の思い出も含め、人間と自然の共存をテーマにした作詞作曲や『再生のエヌラルドグリーン』（新風舎、美遠安治 最寄りの書店でお取り寄せできます）と題した本の出版等手がけております。

